

吉永みち子委員（ジャーナリスト）

警察発表を記事にする場合でも、記者として基本的には鵜呑みにするのではなく、不明な点、不自然な部分を感じ取るセンサーが求められる。それがないと垂れ流しになる。今回も、県議が信号無視で頑なに出頭拒否して逮捕という最初の記事には、一読者ですら「なんで？」という違和感を覚える。捜査関係者の話を取材するなら、否認している吉川氏の話も聞くのが公平な姿勢だろう。信号無視の容疑での家宅搜索や本人の立会いのない現場検証などの異常な展開にもセンサーが作動していないのはなぜだろう。意図的でないなら、いささか真実に迫ろうとする姿勢が希薄と思わざるをえない。

吉川氏の抗議を受けてからの当委員会への報告も、吉川氏本人への説明も、あまりに表面的で自己弁護色が強くて驚きすら感じた。県警発表時は夕方で時間的な余裕がなかったとし、氏の会見時は人手が足りずに放射能問題の方が重要だから欠席というのでは、あまりに新聞社の都合優先に過ぎないか。共同通信の記事を配信しなかったのは、取材しないまま報じることに抵抗を感じたとしながら、一方では取材しないまま警察報道は抵抗なく書くというのも理解に苦しむ。この対応で逆に報道姿勢ばかりか、身勝手さを身勝手と感じない体質まで浮き彫りにされてしまった感がある。日本では容疑者と報じられた段階で、回復不可能なほどのダメージを受けるということを深く胸に刻んで記事にするべきで、今回の経過を言い訳で乗り切るのではなく、もっと深いところで受け止め、今後の報道のあり方につなげて欲しいと切に願う。

鈴木秀美委員（大阪大学大学院高等司法研究所教授）

今回の苦情に関連して、毎日の報道には2つの問題があったと思う。

1つ目の問題は、6月1日の初報で引用された捜査関係者のコメントである。反則金（それも6000円）を払えば済むことなのに、なぜそうしないのか不思議だというコメントは、前県議が信号を無視したことを前提としている。「信号無視容疑で前県議逮捕」という通常ではちょっと考えられない事件だったこと、信号無視の容疑をかけられたのがポスティングという政治活動中で、時期的にも県議選の約1ヶ月前だったことなどに照らせば、初報には捜査関係者のコメントだけでなく、元県議の言い分もあわせて掲載しておく必要があったと思う。痴漢の嫌疑をかけられたとき、たとえやっていなくても、素直に認めて謝罪したほうが、否認して長期戦になるよりましだといわれることがある。しかし、事件報道の場合には、たとえ被疑者が逮捕されても、「この容疑者が本当にやったのか」という視点で事件をみつめる必要がある。

2つ目の問題は、前県議の記者会見を取材せず、共同通信の配信記事も掲載しなかったことである。他の取材のせいで毎日として記者会見を取材できなかったというが、だったら、初報とのバランスを取る意味で、共同通信の配信記事だけでも掲載しておくべきではなかったか。意図的ではなかったとしても、毎日は、結果的に起訴猶予の判断が出るまで捜査当局の情報だけを報道したことになる。

千葉支局長も、初報のコメント引用は、前県議が信号を無視したと決めつけていると読者に受け止められる可能性があったと認めている。今後の事件報道にあたっては、たとえそれが軽微な事件であったとしても、読者に予断を与えないための配慮を忘れないで欲しい。

池上彰委員（ジャーナリスト）

申立人は、「なぜ私や私の弁護士に取材をおこなわなかったのでしょうか？」と疑問を呈しています。新聞記者として、耳に痛い疑問ではありませんか。警察の発表だけで記事を書くのではなく、こちらの言い分も聞いてほしいという願いは痛切です。

「原付バイクで信号無視し、度重なる出頭要請に応じなかったから前県議を逮捕した」というのは、異様な印象を受けます。何があったのか、千葉支局としては、せめて弁護士に連絡をとって事情を聞く努力はすべきでした。限られた時間の中でも、全力は尽くすべきです。

もうひとつ問題なのは、吉川氏の記者会見を毎日新聞の記者が取材しなかったことです。支局の記者の数は限られ、やりくりがつかない事情はわかります。しかし、共同通信は取材をして、毎日新聞に記事を配信してきました。これについて千葉支局長は、「当事者間で大きく意見の分かれる内容について、毎日新聞として取材しないまま報道することに抵抗もあり」「通信社電を県版出稿することを見送りました」と報告しています。ここに重大な問題があります。

「毎日新聞として取材しないまま報道することに抵抗」があるのなら、それからでも独自に取材をすればいいではないですか。

また、その余裕がないのなら、なぜ毎日新聞は共同通信に加盟したのかを思い出してください。

共同に加盟したのは、発表記事などは共同に任せ、毎日としては独自取材に力を注ぐ方針になったからではありませんか。独自の取材ができないのであれば、こういうときこそ、共同通信の記事を使用すべきではないでしょうか。